

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年12月11日

【評価実施概要】

事業所番号	0173200502		
法人名	特定非営利活動法人 鷹の巣		
事業所名	グループホーム 栞		
所在地	北海道上川郡剣淵町仲町23番2号 (電話) 0165-34-9111		
評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成21年12月10日	評価確定日	平成21年12月29日

【情報提供票より】(平成21年11月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年3月23日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 6人, 非常勤 6人, 常勤換算	8.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造モルタル 造り		
	2 階建ての ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	16,000 ~ 21,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	350 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,050 円		

(4) 利用者の概要(11月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低 75 歳	最高 94 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	剣淵町立診療所、剣淵歯科診療所、士別市立病院、訪問看護ステーション
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

理念にある人権・尊厳を法人及び管理者、職員が一丸となって尊重し、安心・安全・安楽な生活が送れるように取り組んでいる非営利法人が運営する1ユニットのグループホームです。また、虐待防止法の研修会を実施して全ての職員の意思の共有や剣淵町、社会福祉協議会、グループホーム協議会主催の外部研修会を通じて職員の段階に応じた研修の確保やネットワーク構築も行われています。剣淵高校の福祉授業の講師の受託や実践者研修、実習生の受け入れ、身体障害者のトライアル雇用への協力など社会貢献及びホームの持つ機能の地域への還元も実践されています。行政との連携・協力体制が確立されケアサービスの向上に活かされています。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では、改善すべき課題の指摘がありませんでした。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、全ての職員が参加して行われ、振り返りや改善の機会として話し合われています。また、外部評価の結果については申し送りや日常業務を通じて、改善の機会として利用されていると共に運営推進会議にも報告されています。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 2ヶ月毎に開催され議事録は、士別市、剣淵町に報告され主な議題は 事業所利用状況及び予約状況について 職員外部研修参加報告について 地域交流状況説明(剣淵高校教育実習、地域ケア会議等) 新型インフルエンザ感染症対策実施について 情報の公表制度、敬老会開催について
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 玄関に「意見箱」を設置して、家族や来訪者等が意見や苦情等を言い表せる機会を設けています。また、家族会や運営推進会議委員との意見交換では、出された意見や苦情等を運営に反映するよう職員間で話し合われ、その結果を家族会、運営推進会議、行政へ報告し、意見を求めフィードバックしています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 日常生活を通じて、近隣住民との交流や地域の行事参加は積極的に行われています。また、災害などの緊急時に備えて、地域住民や行政機関と連携した取り組みが実践されています。剣淵高校の生徒達が栽培した花が飾られ定期的に交換され、教育実習の場として提供されていると共に利用者との交流の機会となっています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく暮らし続けるサービスとして、本人の権利・尊厳、誇りを守るホーム独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念を共有し、引き継ぎ時や研修会等で話し合われ、その実践に日々取り組んでいる。	○	特筆すべき点として、理念にある人権・尊厳を法人及び管理者、職員が一丸となって尊重し、安心・安全・安楽な生活が送れるように取り組んでいる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常生活を通じて、近隣住民との交流や地域の行事参加は積極的に行われている。また、災害などの緊急時に備えて、地域住民や行政機関と連携した取り組みが実践されている。	○	特筆すべき点として、剣淵高校の生徒達が栽培した花が飾られ定期的に交換され、教育実習の場として提供されていると共に利用者との交流の機会となっている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全ての職員が参加して行われ、振り返りや改善の機会として話し合われている。また、外部評価の結果については申し送りや日常業務を通じて、改善の機会として利用されていると共に運営推進会議にも報告されている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、家族会代表、老人クラブ会長、主任児童委員、児童委員、民生委員、知見を有する委員、法人理事及び管理者・職員が参加して2ヶ月毎に開催され、士別市、剣淵町担当者にその議事内容が報告されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人は、行政との連携・協力体制の構築について充分理解し、運営推進会議の内容や緊急連絡網の機能の状況、避難誘導時間、利用者の退避時間、近隣住民との連携など詳細に係機関に文書で報告している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理は、毎月報告されている。また、「お便り」を発行して、日常の暮らしぶりや行事参加の様子、健康状態など報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「意見箱」を設置して、家族や来訪者等が意見や苦情等を言い表せる機会を設けている。また、家族会や運営推進会議委員との意見交換では、出された意見や苦情等を運営に反映するよう職員間で話しかけられている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職率は低く、本人の権利・尊厳を大切にしたケアサービスを実践している。また、理念にターミナルケアの実践をいち早く唱っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	虐待防止法の研修会を実施して全ての職員の意思の共有や剣淵町、社会福祉協議会、グループホーム協議会主催の外部研修会を通じて職員の段階に応じた研修の確保やネットワーク構築も行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	バリデーションケアの実践で職員はその手法を活かしたケアの実践と共に、同業者研修会の指導や相談にも応じて地域のケアサービスの質の向上に貢献している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、利用者・家族の不安を解消する取り組みや、場の雰囲気に馴染めるよう相談しながら工夫している。また、家族の信頼も厚く、本人が安心して日常生活を送っている様子がアンケート結果でも証明されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀しさを共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、寂しがりやで不安になる利用者にはホールの横にベットを置き、声かけしながら一緒に日常生活を過ごせるよう取り組んでいる。また、野菜の収穫等一緒に過ごしながらか喜ぶ哀しさを共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用して、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を把握して、手作りの歌詞カードでの歌唱等への支援を本人本位に検討している。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、利用者、家族の希望や医師からの助言・情報、職員からの意見を取り入れ具体的な介護計画となっている。		
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護支援専門員の適切な監理のもとに、毎月カンファレンスを実施して、職員全員で介護計画書の見直しと評価を実施している。また、利用者・家族の要望や利用者の状態変化に応じて都度、現状に即した介護計画の見直しが行われている。	○	特筆すべき点として、日々変化する状態について記録が簡素化され、家族が見ても一目で生活の様子がわかりやすい。
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、散歩や買い物、通院への支援が柔軟に行われている。また、職員が理美容など無料で支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切にし、常勤の看護職員と利用者それぞれのかかりつけ医、訪問看護師との連携で適切な医療が受けられるよう支援されている。		
19	47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、法人の方針が明確化され職員間で共有されている。また、ターミナルケアが実践され、家族からも良く理解されている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの権利・尊厳、プライバシーを尊重した取り組みが行われている。また、個人情報に配慮した取り組みが実践されている。		
21	52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にして、散歩や畑仕事、食事の準備・後片付け、歌唱や行事参加、地域のボランティアの演奏会参加など本人の希望やペースに沿った支援をしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら利用者と職員と一緒に食事の準備や後片付け等している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて支援している。また、昇降リフトの設置や状態変化に応じて浴場の改装等行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かしながら歌を歌ったり、嚙下体操、洗濯物たたみ、食器拭きなど役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりのその日の希望にそって、買い物や散歩、地域の夏祭りやカラオケ大会参加など戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	法人及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアを実践している。また、利用者が外出する時は、センサーの設置や設備の工夫と職員の見守りで安全面が確保されている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	資格を持った防火管理責任者の配置やスプリンクラーが設置されている。また、地域の人々との協力体制が確立されている。	○	特筆すべき点として、他に類を見ない程の総合的なリスク管理やコンプライアンス、行政との連携に取り組まれている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や力、習慣に応じて具体的な水分・食事摂取量が記録され、栄養バランスや摂取カロリーについてもおおよそ把握されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	剣淵高校寄贈のシクラメンの花等が数多く飾られ、家庭的雰囲気が感じられると共に玄関、共用空間には椅子やソファが配置されている。また、寂しがりやで不穏になる利用者には、居間にベットを置き、職員や利用者が良く声を掛けて支援している。利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、無料の介護ベットが用意されている。また、本人や家族と相談しながら、仏壇や使い慣れた家具、ソファなどが持ち込まれ本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。